

話題



町政懇談会



地域の将来を考え、まちづくりをどうするのか。現在の課題と未来の展望を町民の皆さんと共に考え、幅広く議論するため6月17日から24日(土・日を除く)までの5日間町内の公共施設で町政懇談会を行いました。

17日には、聴覚・音声・言語障害のために手話通訳・要約筆記通訳が付き、障害者の皆さんにも参加いただきました。(6月21日に予定していました本郷小での懇談会は台風6号により延期。)

町長から当面する町の事業について説明があり、国などからの補助金が減額される中で事業を行うに当たり、財政的に大変厳しい状況にある旨の説明がありました。また、名取助役から富士見町開発公社の経営状況について報告がありました。

境小学校児童会「平成16年度日本善行会春季善行表彰」受賞

5月22日に明治神宮参集殿において、日本善行会春季善行表彰が行われました。

この表彰で境小学校児童会が、「平成13年以来、毎週2回、校区内の自然と文化財のすばらしさを知り、環境整備を行うとともに、子ども達に自然環境と郷土を大切にする心を育てている。」という活動内容により、青少年善行表彰<自然と文化財愛護>を受賞し、代表の副会長桃根耶衣(ももねやえ)さんが表彰を受けました。



表彰状を受けとる児童会副会長の桃根耶衣(ももねやえ)さん

ふるさとのみなさんへ 東都高原富士見会だより



小林みづ子
東京都西東京市
(上葉木出身)

歳月は街の風景のみならず人の心の原風景も変えていきます。私が青春時代を過ごした昭和30年以前の生活は、電話や冷蔵庫や車といった今では当然のごとくあるものがほとんどなく、それが昭和40年以降になると高度成長の恩恵を受け、劇的に変化していききました。変化が悪いとも、便利さが悪いとも思いません。しかし捨て去ってきたもの、置いてきたものの中に本当はとても大切なものがあつたのではないのでしょうか。

私の心の風景もこの十年で大きく様変わりし、その流れの中で大切なものを捨て、忘れ去ってしまったものがなかったか、いま自分に問いかける心の余力が生まれてきたようにも感じます。「定年後はどうしましょう」と漠然とした不安に居場所のない日々を送っていた頃、ふと目に留まったパート募集の文字。未知の仕事に自信などある訳もなく、肩の力を抜いて軽い気持ちで始めたコロッケ屋の仕事。毎日が楽しく、今までにない人と人との心のふれあいで、いつしか私の中で忘れていた大切なものを思い起こさせてくれる大事な仕事に変わっていききました。

やがて半年が過ぎ、自分の仕事として永く出来るのではと思い、大胆にも自分でお店を思いついて早いものでもう四年の月日が過ぎました。庶民的なコロッケを、多くの人に喜んでもらえるような背負いたいお店が私の新たな心の原風景になりました。

毎日、何百というお客様と言葉を交わし、町中や電車やバスの中でさえも「コロッケちゃんのおばちゃん」と声を掛けられる度に、この仕事に出会えたことに心から感謝する想いで満たされています。体の続く限りパートさんの力を借りながら、より多くの皆様に美味しいコロッケをと思いいっぱい頑張ります。私のこれからの十年のために。